

平成18年度業務実績評価の際、評価委員会から指摘された事項に対しての対応状況調査表

| 評価委員会からの指摘事項 | | 対応状況 |
|--------------|--|------|
| 1 | 「I. 1.」業務運営の効率化に関して、平成19年度以降、業務・システム最適化計画に基づく最適化が着実に実施されることを期待する。 | |
| 2 | 「I. 2. (1)」理事の常勤化に伴う執行体制の整備として、幹部会が、目標達成のためにもかなり有効に機能しているので、この会議体の運営の効率化をより進めることを期待する。 | |
| 3 | 「I. 2. (2)①」歴史公文書等の受入れ、保存、利用等の措置において、受け入れた資料について、内容等を含めてさらに判りやすく一般の方々に周知させる工夫がなされることを期待する。また、移管の申出がなかつたファイルについて、移管のための更なる努力を期待する。 | |
| 4 | 「I. 2. (2)③」平成17年度から館の広報活動の検討を外部の専門家の協力の下に始め、平成18年度に、国立公文書館の事業理念、使命、将来構想を明確にした「パブリック・アーカイブズビジョン」を策定した。ビジョンで示した国立公文書館が果たすべき役割を国民に対して約束するという役職員の決意表明となっていることは評価できる。今後、決意表明にとどまらず、館の利用者だけでなく広く一般社会に国立公文書館が認知を得られるような努力が必要である。 | |
| 5 | 「I. 2. (2)③」展示会の実施に当たっては、専門家の意見聴取だけにとどまらず、広く一般の方々のニーズを把握するなど、今後の更なる努力に期待する。 | |
| 6 | 「I. 2. (2)④」デジタルアーカイブ化の推進について、今後、更なる充実を期待する(平成18年度のアクセス件数は、トップページで約19万1千件等合計35万件)。 | |
| 7 | 「I. 2. (2)⑥」利用者の利便性向上のための所在情報の提供について、宮内庁書陵部等5機関の詳細な所在情報の提供及び主要な所蔵資料の紹介を行う歴史公文書探求サイト「ぶん蔵」を公開したことは評価できる。一般の方々の関心も高く、今後、充実を期待する。 | |
| 8 | 「I. 2. (2)⑥」国際的な公文書館活動への参加・貢献において、国際的な交流活動の著しい効果がさらに上がるよう、今後も積極的に取り組んでほしい。 | |
| 9 | 「I. 2. (3)①」アジア歴史資料のデータベースの構築において、今後は、3機関の画像情報提供の状況などがよりわかりやすくなるように、更に工夫するとともに適切に対応することを期待する。 | |

| | | |
|----|---|--|
| 10 | <p>「I. 2. (3)②」アジア歴史資料センターの広報において、平成18年度のアクセス件数は約58万件で、17年度のアクセス件数と比べてほぼ半分となっている。これは、新聞系のウェブサイトにバナー広告を実施するなど広報に努めているが、スポンサーサイト広告の中止が影響したものである。今後、広報の内容等を充実させアクセス件数の増加に努められたい。また、これまでのインターネット特別展は全て好評だったが、今後、更なる充実を期待する。</p> | |
| 11 | <p>「I. 2. (3)③」利用者の利便性向上のための諸方策においては、センターのウェブサイト上に「ユーザーの声」を設けて随時利用者からの意見、要望等を受付け、その都度回答したり、指摘を適宜情報提供サービスに反映させたことにより、利用者にとっての利便性を向上させたことは評価できる。今後、さらに文書と探索語が適正に対応しているかの検討が必要である。また、新システムについて、今後、監査によって得られたセキュリティの一層の強化のための種々の提言を実現するよう期待する。</p> | |
| 12 | <p>「◎総合評価(業務実績全体の評価)」において、国立公文書館が目指す事業を行うための体制整備と事業内容の更なる充実強化を図るため、 ①4と同内容。②館の行う事業は、国民の財産である歴史公文書等を世代を超えて後世に引き継ぐという、国として果たすべき重要な役割である。しかしながら、現在、館において保存されている歴史公文書等については、質、量ともにまだ少ないと言わざるを得ない。次年度以降も引き続き全ての対象機関からの移管と、移管数の増加に努めること。 ③館とアジア歴史資料センターは、相互の特徴を活かしながら業務上の連携を強化してきたが、今後ともより連携の強化を図ること。 ④専門職員の不足など諸外国の公文書館と比較して、著しくたち遅れている点につき、体制整備と充実強化を期待する。</p> | |
| 13 | <p>総務省政策評価・独立行政法人評価委員会から出された業務実績評価に関する当面の取組方針に基づく評価において、①市場化テストの導入の可否について検討を行うことを期待する。 ②随意契約については、平成17年度より契約件数、契約金額ともに見直しにより減少していることは評価できるが、今後もさらに必要最小限のものになっているか見極める必要がある。 ③自己収入については、展示ホールに絵葉書セットを紹介する陳列ケースを設置するなど、積極的な販売に努めているが、更なる販売努力を期待する。</p> | |

※ 項目別評価表に対応状況が記載されている場合は、その旨を記述する。